

豊橋市高校生SDGsチャレンジ

豊橋市 × 東京海上日動火災保険（株）

取組概要

豊橋市、東京海上日動火災保険（株）、豊橋信用金庫の3者が、SDGsゴール達成に向けた行動と第6次豊橋市総合計画（まちづくり戦略含む）を進めていくにあたってまちづくりに関わる人を増加させるため、学校、豊橋市SDGs推進パートナー（企業等388団体）、報道機関などを巻き込みながら、将来を担う若者（高校生）の行動変容を促し、本人や周囲の人々のSDGs及びまちづくり行動に繋がれた。

R4は大学生も追加



私たちがつくる、未来をつくる



応募のあった取り組み

基本情報

代表地方公共団体	豊橋市
代表民間団体	東京海上日動火災保険（株）
他の連携団体等	豊橋信用金庫
カテゴリ	行政サービス・手続き／教育プログラム・学力向上／地域情報・行政情報発信
事業費	事業費：33万3,000円（市費）、特別賞（パートナー提供）、実施期間：令和3年5月～令和4年2月
めざすSDGsゴール	
事業化までの期間	0.5年

取組内容



オンライン授賞式の様子：R3参考



豊橋市SDGs推進パートナー賞：R3参考

この取組で解決した課題	SDGsに関して認知度は上がっているが、行動に繋がっていない ⇒特に若い人に取り組んでもらいたい 第6次豊橋市総合計画（まちづくり戦略含む）を進めるにあたって、まちづくりに関わる人を増やしたい。 ⇒SDGsという分かりやすい目標をきっかけにしたい
解決に向けた手法	包括連携協定を締結している東京海上日動火災保険、豊橋信用金庫はもちろんのこと、豊橋市SDGs推進パートナー（388団体）、市内高校の協力のもと（役割は取り組み詳細に記述）実施。 5月～2月の事業期間で、7月～10月に取り組みを募集、1月に授賞式を開催。その後、取り組み内容等は各種イベントで内容展示。 高校生が実際に行った取り組みを募集して応募案件の内容を豊橋市SDGs推進パートナーに選定してもらい表彰及びコメントしてもらうことで、高校生と企業の接点づくり、高校生のモチベーションアップを図った。 多くのパートナーを巻き込むことで、多くの若者の行動変容に繋がれた。 R3（募集期間：7.1～10.31） 331件、666人の高校生が取組、30社のパートナーが特別賞提供（54件（195名））

取組詳細

事業推進上の各団体の役割分担	<p>①事業主体（豊橋市、東京海上日動火災保険（株）、豊橋信用金庫） ・企画、運営、広報など</p> <p>②行動変容支援（豊橋東高校、豊丘高校、豊橋南高校、豊橋西高校、豊橋高校、桜丘高校、中央高校、精華学園高校） ・学生への働きかけや授業で取り組みを支援</p> <p>③事業推進パートナー（豊橋市SDGs推進パートナー（企業等、約388団体）） ・特別賞の提供など、若者を称えるための支援</p>
地域関係者との連携方法	<p>①東京海上日動火災保険（株）、豊橋信用金庫の民間ならではのPR力など、パートナーシップによるSDGs事業を推進するために、包括連携協定を締結した。</p> <p>②高校の先生など関係者を、学生を巻き込みのために、直接訪問し趣旨を説明し理解を求めた。</p> <p>③豊橋市SDGs推進パートナーの企業や団体を、若者を称える協力者になってもらうために、交流会やメールマガジン等で協力を依頼した。</p>
資金調達方法	市予算33万3千円。
資金調達方法の補足	特別賞の賞品はパートナーに協力依頼（30社から提供あり）
事業推進上の課題・工夫	<p>事業推進においては大きく以下の5点を工夫した。</p> <p>①市民にも認知度の高いSDGsを活用し、第6次豊橋市総合計画（まちづくり戦略含む）の基本理念「私たちがつくる 未来をつくる」に基づき、同計画に示した「目指すまちの姿」の実現につなげたこと。</p> <p>②将来を担う若者に豊橋のまちづくりに関わってもらうことで豊橋愛を醸成し地域の担い手としての人づくりを図っていること。</p> <p>③課題解決案の提案企画ではなく、自ら課題を見つけ、見つけた課題の解決に向け、自ら行動に移してもらう制度設計にしていること。</p> <p>④若者の頑張りを多くの人に知ってもらい、若者以外の行動変容につなげるため報道発表を行いメディアに取り上げてもらった。</p> <p>⑤行動した若者を称え、さらなる行動変容へとつなげてもらうため、企業・団体（豊橋市SDGs推進パートナー）を巻き込み、学校や会社といった枠組みを越えた交流を生み出す仕組みを盛り込んでいること。</p>

担当者のコメント

多くの方のご協力をいただき、「私たちがつくる 未来をつくる」の合言葉のもと、「SDGs」を活用した「まちづくり」を進めることができました。

今回の企画では、夢物語を描くアイデア提案ではなく、小さくても行動（アクション）してもらったことになりました。

多くの若者が自分で地域の課題を見つけ、自分にできる、身の丈にあった行動をしてくれたことを本当にうれしく感じています。

考えているだけでは世界は変わらない、一人ひとりの小さな一歩、小さな行動が地域を変え、世界を変える。そして、誰かが変えるのではなく、私が変わる、私が変わられるということをも多くの若者に感じてもらえたと思います。

若者達の行動をたくさんの人達が称えたと同時に、多くの刺激をもらうことができました。

称え合い、刺激し合うことで、行動変容の好循環が生まれてくれたらと思います。

今回の若者たちの行動や成功体験が、人生の糧となり、さらに成長して、豊橋のために、世界のために活躍してくれる人材として帰ってきてくれることを期待しています



SDGsアクションを呼び掛けている様子

優良事例応募項目

取組のポイント（3つの視点）	<p>①地方創生SDGsの視点 SDGsに関する行動変容を促す過程で、SDGsをお手本とした第6次豊橋市総合計画（地域の課題や目標、SDGs達成目標などを記載）をインプットした上で、自ら地域課題やできることを考えてもらい、そして課題の解決に向け、自ら行動してもらう制度設計にしている。</p> <p>②ステークホルダーとの連携 実施主体と共に、若者に行動変容を促してくれる高校の関係者と行動に移してくれた若者を称える仕組みに協力してくれる「豊橋市SDGs推進パートナー」との連携</p> <p>③モデル性・波及性 産学官がそれぞれwinwinになれる仕組みが組み込まれており、事業費をかけず取り組むことができる。 産：自社のSDGs推進や地域への社会貢献ができるとともに、地域の若者との接点をつくること 学：生徒の探究授業で活用できるとともに、学校や企業など社会的枠組みを越えたつながりをつくること 官：総合計画に沿ったまちづくりを市民とのパートナーシップにより推進できるとともに、まちづくりを通じて若者への地域の愛着の醸成（人づくり）や地方創生を進めることができる</p>
----------------	---